

特定非営利活動法人びーのびーの 2024年度事業報告書 2024年4月1日～2025年3月31日

法人設立以来20年経ったびーのびーのが法人として初めて策定した「中期計画『2歩先へ！』」が2022年～3ヶ年におよぶ計画推進の最終年度にあたる2024年の今年度、主に3つの柱(①福祉×教育の連携②産前産後支援のケア×サポート連携③両立支援とも育て支援 地域からの応援体制)について、それぞれにおいて具体的な実践を伴う活動において成果をあげられた年であった。

とくにこの3本の目標が一体的に推進することができた背景には、2023年に制定された「こども基本法」にのっとったこども家庭庁による幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン(はじめの100か月の育ちビジョン)の普及啓発事業の存在が大きかった。全国10ヶ所のモデル事業の1団体としてびーのびーのが受託したことにより、7月の夏前からの3つの柱の実践活動全般において、びーのびーのが依頼し、一定の研修等を受けた地域コーディネーター達の個々の力、それぞれがミッション持って積極的に関わって下さったことにある。

とくに、中高生と乳幼児家庭とのふれあい体験事業においては、実際の家庭側でもある地域コーディネーターが自らが我が子の育ちや親側の体験としての必要性を語り、またある時は地元でPTA会長している地域コーディネーターは関係のある近隣他校のPTA会長や校長に働きかけ、ふれあい体験が実施できるよう呼び掛けてくれたり、またある時は大学生でもある地域コーディネーターは学生側にとっての気づきや体験の重要性を同じ学生に横展開してくれたり、法人職員だけではできない実践とその成果の発信をしてくれたことが励みとなった。

またこの事業の全体推進のやり方としても、同じNPO法人として若者を地域とつなぐ中間支援として、長い活動歴があるアクションポート横浜と協働で進められてきたこともこれからの法人事業の1つの事業を成し遂げる上で、協業連携のタッグを組んで推進できる布石にもなった。

2022年から開設してきた大手デベロッパーである企業の大規模マンション開発におけるエリアマネジメント構想においては、地域交流(開放)室の受付業務やまちづくりの中核をなす事業の受託が新たに始まり、建設前から住民への情報提供活動などを担ってきたことから、マンション住民および近隣住民と共に新しいまちづくりへのさらなる貢献が求められてくることとなった。そのエリアマネジメントが派生し、年度途中からは区南部において同じく横浜市市街地環境設計制度を活用した事業への準備が、2025年度早々の開所をめざし、本格始動していくことになった。多様な主体との多様なまちづくりのあり方においては、時に合意形成や推進のプロセスにおいては地域との醸成の難しさを感じる場面もあったが、今後は場の可能性を見出せる確かな新たな人材との出会いもあり、今後に大いに期待したい。

最後に港北区地域子育て支援拠点どろっぷが20年、どろっぷサテライトが10年目の運営を迎えるにあたり、5年に1度の公募申請を終え、無事5期目の運営のスタートが切れることが正式に決定した。横浜市における子育て支援政策の強化により、拠点運営のDX化や、子育てサポートシステム事業の拡充、誰でも通園制度の拠点版としてのモデル事業の実践など拠点としての多機能化は進んでいる。その一方で自主事業として長年、大事にしてきた少数グループ預かり「まんまーる」はCOCOひよしでの場で活動してきたが今年度をもって終了。

創設25周年を迎えるびーのびーのにとって長きに渡って尽力して頂いてきたすべての個人および他団体、組織に感謝を伝えられる周年事業をフェスティバルとして準備をしつつ終えた1年であった。

1. 子育て支援施設の運営、及び一時預かり事業

①「おやこの広場びーのびーの(菊名ひろば)」

(横浜市補助事業 親と子のつどいの広場事業)

(1) 基本データ

① 対象	主に0歳から3歳までの未就学児とその保護者
② 実施場所	横浜市港北区篠原北1-2-18
③ 開催日時	月曜～金曜 9:30～15:30 第3水曜 12:00～15:30 毎月第2、3土曜 9:30～15:30 (マタニティソーイング開催日は13:00開館)
④ 従業員数	9名
⑤ 事業概要	・ 子育て親子の交流、集いの場の提供 ・ 産前から産後への切れ目のない支援 ・ 子育てに関する相談の実施 ・ 地域子育て関連情報の収集及び提供 ・ 子育て及び子育て支援に関する講習の実施 ・ 一時預かりの実施
⑥ 利用者数	年間利用者数 5,621 名 1日平均 21.5 名

(2) 報告

1) パパの来館につながる工夫を行う

土曜ひろばの中で「パパびーのタイム」と銘打った時間を設定。前年度パパと子どもの利用が148人だったのに対し、今年度は175人とわずかに増加した。

2) 年齢にあった遊びや過ごし方を異年齢の交流を通しての学び

日常の中で少し先月齢や上の年齢の親子との交流を通して、少し先の見通しがたち目の前の不安を削減する親子の姿が多くみられた。ボランティア学生との会話から自分の子の将来をポジティブに想像できたという声があった。

3) 産前から切れ目ない支援を通して地域とつながる

マタニティソーイングを6回開催。頼れる制度や場所(産前産後ヘルパー、産前産後のおうち、各地区のひろば、子育てサポートシステム、など)を紹介。またチラシなどの広報でプレパパへの呼びかけに力を入れたところ、沐浴体験や助産師から赤ちゃんのお世話のアドバイスを受ける機会につながった。

4) ひろばと地域を結ぶ(子ども編:地域の中で活躍する楽しみを感じてもらえる機会)

夏休みに利用者親子と一緒に楽しめる小学生企画を実施。オリジナルのストーリーでの自作ペープサート・合唱・ピニャータなど自発的な姿が見られ、バザーでの発表もおこなった。バザーでは各ブースでのお手伝いを担当した。

5) こどもの成長や喜びを利用者とともに共有し、親も子も安心できる一時預かり

預かり予約のキャンセルが出た枠を他の利用者に対して積極的に周知し、当日預かりにつながった。預かり中のこどもの様子、必要であれば食事・ミルクやおむつ替えの時間などの情報を詳しく伝えることで、きめ細やかな一時預かりを行うことができた。

②子育て支援スペース COCOひよし

(横浜市補助事業 親と子のつどいの広場事業)

(自主事業)

(1) 基本データ

① 対象	[1]主に0歳から3歳までの未就学児とその保護者 [2]学童期含む子どもから高齢者
② 実施場所	横浜市港北区箕輪町2-7-60-1B(プラウドシティ日吉レジデンス I 地域貢献施設「まちのリビング」隣)
③ 開催日時	日曜～金曜 9:00～15:00 <横浜市親と子のつどいの広場事業> 日・月・火・木・金 <自主事業> 水 (グループ預かりまんまーる日吉 9:30～13:00)
④ 従業員数	10 名
⑤ 事業概要	・横浜市親と子のつどいの広場事業の運営 ・自主事業グループ預かり「まんまーる日吉」の実施 ・イベントスペースの貸し出しを通じた地域活動支援 ・一社)ACTO 日吉と連携したエリアマネジメント
⑥ 利用者数	年間利用者数 7,697 名 1日平均 27.9 名

(2) 報告

1) 横浜市親と子のつどいの広場の運営

- ・今年度から、閉館時間を 1 時間延ばし 15 時までにしたことで、午後からひろばを利用する親子も(平均):約 2.36 組から(平均):約 3.54 組と 1.5 倍に増加し、柔軟に利用いただけるようになった。
- ・港北区の妊娠期支援事業や地域両親教室を通し、妊娠期のご家庭への周知を図った。
- ・子育てサポートシステムの預かりの場所として定期的にご利用のご家庭が増えたことで、利用・提供会員双方への可視化につながった。
- ・月1回の「ミニバザー」の開催を通して地域交流を促進し、またフードドライブ活動も同時実施し、物品寄付、活動周知の効果をj得ている。

2) 自主事業グループ預かり「まんまーる日吉」の実施

- ・月 3 回水曜日に実施、プログラムにはひろば利用の親子も参加し、集団で遊ぶ楽しさを提供できた。
- ・従来のグループ預かりの運営が厳しい状況となり、2024 年度開催を最後に「まんまーる日吉」終了

3) イベントスペースの貸し出しを通じた地域活動支援

- ・学童期向けのニーズが多く、日・水曜日以外は定期利用をいただいている。

4) 一社)ACTO 日吉と連携したエリアマネジメント

- ・ACTO 日吉業務の委託を受けた地域 remix と密な連携をとっていくと共に、コアパートナーの COCO ひよしとしても、地域貢献の一助を担った。
- ・「箕輪商エフェスタ」「日吉ふくふくスタンプラリー」への参加を通して、地域とつながることができた。
- ・デジタルサイネージの稼働で、地域情報発信の強化を図った。

5) その他

- ・ホームページや SNS 等を使ったプログラムの案内など定期的な情報配信を行ない、周知を図った。
- ・YS 市庭コミュニティ財団助成事業「子どもたちの午後の居場所 GOGO ひよし(～2024/9)」 「箕輪みんなスマイル(2024/10～)」では学童期の子どもだけではなく、乳幼児子育て家庭の利用が多く「午後から夕方の居場所のニーズ」が把握できた。
- ・「ぶれじょぶ®in つるみ」の活動を定期的に行った。

③港北区地域子育て支援拠点どろっぷ

(市民協働事業 横浜市港北区地域子育て支援拠点事業)

(自主事業)

(1) 基本データ

	どろっぷ	どろっぷサテライト
① 対象	主に0歳から3歳までの未就学児とその保護者	
② 実施場所	横浜市港北区大倉山3-57-3	横浜市港北区綱島東3-1-7
③ 開催日時	火曜～土曜 9:30～16:00(隔月日曜開館あり)	
④ 従業員数	29名	16名
⑤ 事業概要	・子育て親子の交流、集いの場の提供 ・子育てに関する相談の実施 ・子育て及び子育て支援に関する講習の実施 ・利用者支援事業(一時預かり事業) ・横浜子育てサポートシステム(以下:子サポ)	
⑥ 利用者数	広場利用者数 28,774 名	広場利用者数 29,700 名

(2) 報告

1) 地域資源とも連動したこどもの遊びと体験の場の創出

こどもの遊びを充実させるため、乳幼児に向けてはふれあい遊びや手遊びなどを日常的に実施し、幼児向けには身体を使ったダイナミックな動きを取り入れたプログラムを開催。公園遊びや保育園、幼稚園の園庭開放など地域の社会資源の紹介と共に、スタッフも同行することで親子が安心して参加することができた。

2) 専門職との連携によるワンストップ支援

利用家庭の声や相談ニーズからテーマ別に座談会を設定したことで、親同士の交流とともにピア相談の場として機能した(育児休暇取得中の父親、第2子以降の家庭、高齢出産、ひとり親、ダブルケア家庭の会等)。

3) 拠点システムの移行による情報発信アクセスしやすい体制づくりと

横浜市の DX 計画に伴い、開始した横浜市地域子育て支援拠点サイトにおいては、スタッフ間の連携により来館時の流れや登録などを丁寧に対応できたことで、スムーズな受入とアクセスしやすい環境を整えた。

4) ネットワークを活用したこどもの育ちを応援する地域での仕組みづくり

乳幼児とのふれあい体験授業は、県立・市立高校、市立小・中学校で継続実施。中学校技術家庭合同会議や県次世代育成課とともに成果効果を共有できたことで、教育機関や地域支援関係者との事業理解が進んだ。

5) これから産み育てる層への体験機会と受入れ体制の充実

ボラリーグでは参加者73名、受入れ団体81施設、延べ160回のコーディネートを実施。乳幼児に対する学びに加え、職業としての価値観や身近な地域への関心を高められるきっかけづくりともなった。

6) 柔軟な研修体制を活用した若手人材へのアプローチ

子サポ担い手拡充のために、20代の学生や就労家庭など幅広い年齢層に向けてもeラーニングで受講できるメリットを活かして、子育て家庭の現状を伝えるなど働きかけや丁寧なフォローを行い活動に繋がった。

7) 学齢期を見通した施設間連携による切れ目ない支援

近隣小学校・小学生の居場所(フリースクール)の児童のボランティアとしての来館があることで、先方との交流や情報共有の機会が得られ、相談対応している家庭にも就学後の居場所としての情報提供も出来た。関係団体の方にも併せて利用者支援事業について説明する機会が得られ、双方での事業理解が深まった。

8) 多機能を活用した一体的な預かりを踏まえた「こども誰でも通園制度」への発展

一時預かり事業を利用することで、子サポとの連続性がある預かりや他施設への利用に繋がる家庭も多く、他預かり施設との情報共有や連携を深めることができた。また、8月から試行実施した「こども誰でも通園制度」では、こどもが日常的に過ごす場として継続した預かりによる人や場への愛着を育むことができた。

2. 子育て支援に関する事業

①産前産後ヘルパー派遣事業

(横浜市委託事業)

(自主事業)

(1) 基本データ

① 対象	横浜市内に住民登録をしている世帯で次のいずれかに該当する世帯 1)妊娠中で、心身の不調等により子どもの養育に支障があり、かつ日中家事又は育児を行う者が他にいないため、支援が必要な世帯。 2)出産後5か月(多胎児の場合は出産後1年)未満で、日中家事又は育児を行う者が他にいないため、支援が必要な世帯。 ※自主事業に限り、小学校1年生まで利用可能
② 実施場所	主に利用者の自宅(利用者の外出付き添い・買い物は可能)
③ 業務時間	市事業：月曜～金曜 9:00～17:00(年末年始・祝日は除く) 自主事業：月曜～日曜 9:00～19:00(年末年始・夏季休業は除く)
④ 従業員数	2名(ヘルパー70名)
⑤ 事業概要	対象世帯に対して、登録の家事・育児ヘルパーを派遣する。 横浜市委託事業の他、自主事業も行う。
⑥ 利用者数	利用回数 1370件 うち自主事業分 195件

(2) 報告

1) 横浜市産前産後ヘルパー

区や保健師からの紹介、両親教室、口コミなどをきっかけに、ほぼ毎日問い合わせがあった。産後のサポートが無い場合に「ヘルパーに依頼する」という選択肢が徐々に浸透し始めているように感じた。港北区外からの問合せは月に約10件あり、他事業所では断られたケースなど、できる限りの範囲で対応したが、更なるヘルパー人材確保が課題である。

2) 横浜市育児支援ヘルパー派遣事業、横浜市ひとり親家庭等日常生活支援事業

依頼が大幅に拡大した。育児支援ヘルパーでは、若年妊婦の二人目の出産前後に、上の子の保育園送迎をサポート、こどもが自閉症である家庭の家事・育児サポート、精神疾患を抱えるシングルマザー

の家事・保育園送迎サポートなど、それぞれの困り事は異なるが、保健師とヘルパーと連携してサポートを行った。ひとり親家庭等日常生活支援事業では、0才児を抱えるシングルマザーの復職前後の時期の家事・育児をサポートした。

3) 自主事業

依頼が増加。横浜市産前産後ヘルパー派遣事業の利用後に、引き続き利用する方が大半だが、家事・育児負担の軽減を図るために初めて依頼するという方もいた。市の事業と比較すると利用料は高額だが、土日祝日に利用できることもあり、その価格の価値があるサポートであると認知され始めている。

4) 外国とつながりのある利用者

区役所からの紹介や、直接の問合せが複数あった。実際のやりとりはメールで行うことで、スムーズにサポートできた。菊名国際交流ラウンジの方々と繋がれたり、ことのはラーニングの英語プログラムを受講し、専門用語が多い産前産後の時期の英語を学び、スキルアップできた。

5) ヘルパー向け研修

2回実施。秋は調理研修、冬は訪問看護師より産前産後のご家庭を支えてきた実際のエピソードから学ぶ講義で、ヘルパー事業の重要性を再確認できた。

②産前産後の子育て家庭を支えるための

地域版セーフティネット創出のための活動

(中央共同募金会 赤い羽根福祉基金助成事業)

(1) 基本データ

① 対象	妊娠期～産後 1歳未満の家庭
② 実施場所	主に区内2ヶ所(産院付き専用戸建て・戸建て)
③ 業務時間	火曜～金曜 10:00～15:00(活動によっては夜間もあり)
④ 従業員数	5名程度(助産師など専門職の関わりもあり)
⑤ 事業概要	主に区内2所の専用の場所を借りて、産前から産後の「医療」から「生活」に入る助産期間を、法人が運営する子育て支援拠点やひろば事業と連携して切れ目ない支援を行い、産後ケアから産後サポートへの新たなモデルを形作ることが目的。

(2) 報告

1) 産前産後期ニーズとそれに伴う可視化

産前産後期のサービスを実際に利用したことがある家庭は10%に満たない(横浜市港北区4ヵ月検診アンケートより)。「うち」の場にヘルパー活動やファミリーサポート活動を行っているスタッフがいることで、実際にサポートを利用するイメージができた。また、その場でヘルパー事業やファミリーサポート事業の申し込みを一緒に行うことができ、利用の推進につながり、孤独の子育てから地域の手を借りるきっかけをつくることができた。

2) 「子育てタクシー®」の登録・利用促進

公共交通機関では補えない移動困難さをモニター利用者から意見交換会と座談会を行い聞き取る。「子どもが泣くので周りの反応が不安」「重い荷物と子どもと移動できるか心配」など。活動現場での子育てタクシー登録方法や 利用者の子育てタクシー利用体験談を紹介し、利用促進につなげた。

3) 市内 NPO 法人とのネットワーク

横浜市北部で子育て支援の活動をしている団体に声かけし、「産前産後期における活動状況の意見交換会」からスタートし、各法人の産前産後期の取り組みと課題をシェア。「妊娠期からの切れ目のない

支援の重要性」というキーワードを各法人とあらためて共有。成果報告会では他区 2 つの代表者とディスカッションを行い、参加者とともに理念の共有をあらためて行った。

4) 地域の介護予防サービス団体や障害者地域作業所との連携

ランチを配達している団体から、介護予防サービス団体の高齢者との交流を提案され、月に1~2回、15分程度の交流。まちで出会うことの少ない赤ちゃん和高齢者が出会うことによって、子育てをしている親がまちに応援者がいることを実感していた。

5) 予約システム select type の利用

予約システムを導入したことにより、煩雑な予約申し込みや受付業務が容易になり、他地域へ事業を波及する際も汎用性を高めた。

③「シェアねっと」活動から派生した地域寄り場

「よるによる会」でのコミュニティ家族事業

(ドコモ市民活動団体助成事業)

(自主事業)

(1) 基本データ

① 対象	港北区および近隣のひとり親家庭、地域住民など
② 実施場所	子育て支援拠点及び地域ケアプラザ(配食支援)／区内 6 か所の法人事業所(食事会)
③ 業務時間	月曜～金曜 9:00～17:00(食事会は月 1～2回土曜を含む 17:00～19:00 開催)
④ 従業員数	4 名
⑤ 事業概要	本事業は、ドコモ市民活動団体助成を受け、ひとり親家庭を対象に物資支援や交流の場づくりを行いながら、地域の中で支え合いが循環する仕組みをつくることを目的としている。食の提供や居場所づくりに加え、当事者や地域住民が支援者として関わる応援体制の構築を進めている。

(2) 報告

1) シェアねっと利用の様子

食品等を提供する「シェアねっと」は、利用登録者数が 100 名を超え、月約 60 家庭が利用。3月から始めた事務局前で本格的に開始したフードドライブの寄付も提供しており、既存のロータリークラブからの現物寄付やフードバンクや区社協などの関係機関だけでなく個人の善意による安定的供給源の確保を図った。

2) よるによる会の定着と広報活動などによる拡充

誰でも参加できる夕食の会「よるによる会」は助成 1 年目に 5 拠点で計 9 回開催(平均 15 名)。2 年目以降は月約 2 回、6 拠点で開催し、最多で1回あたり 84 名が参加。拠点ではボランティアが企画や運営を担い始めており、参加者の多くはボランティアとして配膳や調理に関わるなど、支援される側から支える側へと役割が移行する循環が生まれつつある。チラシ配布に加えて、地域情報のフリーペーパーへの掲載や SNS で物資の運搬協力者を募るなど応援隊募集広報を強化。地元企業による再生資源を活用した「よるよる応援隊キーホルダー」を制作し協力者のすそ野を増やしていくための専用コンテンツを開発。

3) シェアねっと運営連絡会の開催と相互連携

ひとり親支援等に関わる支援員、ソーシャルワーカー、小学校教諭、フードバンク代表、民生委員、児童主任、学生をメンバーとし、支援協力や情報・意見交換、勉強会を目的とした運営連絡会を発足。5 回開催

し、ひとり親サポート支援、フードバンク、スクールソーシャルワーカー、地域ケアプラザやこども食堂の現状と課題を共有し、貴重な意見をいただいた。また勉強内容をスタッフやボランティアの人材育成のためと共有した。

4) 調査の継続実施

ひとり親へのニーズ調査や「よるによる会」の満足度、ボランティア意識アンケートを実施し、支援の改善や支援者の増加につなげた。現在、ひとり親や「よるによる会」のリピーターを対象に、参加しない理由や参加回数が増えたこと、支援者へと変化した気持ちの変化を調査するため、設問内容を現場スタッフと共に検討中。活動の効果測定やひとり親等のさらなるニーズにつなげていく。

3. 保育事業の運営

認可保育所 ちいさなたね保育園

(横浜市補助事業)

(1) 基本データ

① 対象	0歳から就学前
② 実施場所	横浜市港北区師岡町846-1
③ 開催日時	月曜～土曜 7時30分～18時30分
④ 従業員数	35名
⑤ 事業概要	認可保育所
⑥ 園児数	60名

(2) 報告

1) ちいさなたね保育園創立10周年をまとめる(小規模保育事業立ち上げから)

- ・ 9月14日に港北公会堂で、たねフェスとして、10月26日に小規模保育事業時代の第1回目の卒園生、お世話になった方々と共に、スライドショーや職員、園児の出し物で温かい時間を一緒に過ごし、園の良さや楽しさを伝えられた。
- ・ 10月に園内でこれまでの軌跡を展示し、ご近所の方をご招待し、「まちが保育園」が根ざしていると実感した。

2) 第2ステージへ踏み込む(新人3人を迎えて)

- ・ OJTで後輩に接することにより、自分たちの保育の振り返りやまなびになった。
- ・ ランチミーティングなどで、話しやすい環境を作ることを心がけたが、短い期間でと気付く。
- ・ 月1回の ZOOM ミーティング(非常勤職員も参加)、週1回のチームミーティングで細かい情報共有ができた。

3) おとなも保育に巻き込む

- ・ 町内会のご婦人達に、「ドラえもん音頭」と「ビューティフルサンデー」の盆踊りを教えていただき、師岡町内会の盆踊りに参加した。「ビューティフルサンデー」の踊りは何カ月も子どもたちの間でブームになっていた。
- ・ けん玉講師をお迎えしたところ、5歳児が熱中する。検定試験で級をとる子もいた。
- ・ 木工の講師に来ていただき、のこぎりを体験する。クリスマスツリーを制作した。講師はギターも弾けるとのことで、別日にギターコンサートを開催。2歳と5歳が参加し、フォークソングを聴く。子どもたちはギターに興味を持つ。

- ・フルートのアンサンブルコンサートを園で開催。全学年参加した。
- ・ミズキーホールの0歳児も参加できるクラシックコンサートに0, 1歳児がご招待で参加。
- ・横浜市営バスのクリスマスラッピングバスの車内の絵を全学年で描く。
市営バスの港北営業所にてクリスマスラッピングバスに乗せてもらい、バスの中から洗車体験をした。
- ・(株)ヨロズさんに会社見学をさせていただき、鶴見川土手のごみ拾いをし、SDGsを学ばせていただく。子どもたちは川にゴミが流れると魚が食べてしまう話に心を動かされて、どんな小さなごみも拾っていた。その後、園内研修でなぜ会社がSDGsを行うのかなどを学ばせていただく。

4. まちづくり・地域に関する交流促進及び人材マネジメント事業

①地域福祉・交流スペース COCO しのはら

(横浜市補助事業 介護予防・生活支援サービス補助事業)

(1) 基本データ

① 対象	子どもから高齢者まで
② 実施場所	横浜市港北区篠原町1077
③ 開催日時	月曜～金曜 9:30～15:00
④ 従業員数	6名
⑤ 事業概要	横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業通所型・見守り型の実施 ・食事を通じた交流づくり ・日常的な多世代交流の場 ・学校に行きづらい子の居場所(SOW との連携) ・趣味の講座や得意なことを活かせる活動スペース ・地域連携及びネットワークの強化
⑥ 利用者数	年間 約6,000 名

(2) 報告

1) 日々の活動の周知強化&利用者増

SNS(インスタグラム)を積極的に利用し、日々のランチメニュー紹介、手づくり品を販売、のびのび会の様子等をアップし、利用者増を図った。

2) のびのび会及び見守り対象者を増やす

篠原地域ケアプラザおよび近隣のケアプラザと連携し、要支援者を含む対象者を増やすことを試みた。

COCO しの通信にのびのび会の特集を組み、10 名程度から3名増の 13 名と利用者増につながった。

3) 飲食部門の強化

曜日によってメニューや量を変えるなど工夫をし、親子連れにも好評であった。

4) 単発のレンタルスペースの利用増・学校に行きづらい子の居場所づくり「SOW」さんとの連携

単発の持ち込み講座のリピーターが多く、それに伴いランチ利用にもつながってきた。毎週火曜日は定期的に SOW さんが居場所として活動してくれていることで学童期の子育て支援での課題を共有し、活動の視野が広がった。

5) 庭の整備・活用

毎月第一日曜は定期的に庭の整備の日とし、オープンガーデン参加を目標に継続的に手入れを行っている。

②地域 remix

(自主事業)

(1) 基本データ

① 対象	子育て世帯
② 実施場所	横浜市港北区大倉山2-7-47 シャトレ大倉山103 横浜市港北区大倉山2-7-48 シャトレ大倉山西館201
③ 業務時間	月曜～金曜 9:00～17:30
④ 従業員数	17名
⑤ 事業概要	・子育て情報の編集、発信、情報発信制作物の管理 ・制作・請負業務 ・事務局受託業務 (ア)子どもと保育総合研究所 (イ)子どもと家族支援研究センター事務局 (ウ)国際校庭園庭連合日本支部事務局 (エ)一般社団法人ラシク045事務局 (オ)一般社団法人全国子育てタクシー協会事務局 (カ)NPO 法人ナルク東横浜支部 (キ)につぼん子育て応援団(解散済) ・新規事業開発など自主財源獲得のための活動 ・取材、見学対応 ・外部講演会講師、原稿作成依頼等 ・外部委員会出席等

(2) 報告

1) 子育て情報の編集、発信、情報発信制作物の管理

- ・「びーのびーの幼稚園・認定こども園・保育園ガイド」

25 号を 6 月 1 日に発行。

横浜市の保護者向け園選びサイト「えんさがしサポート★よこはま保育」が出来たことにより、今まで掲載していた園の詳細情報は載せず、各園の HP で確認してもらうよう QR コードを掲載。これまで通り保護者の声は掲載し、ネットでは手に入らない情報に重きを置く作りとなった。書籍としての販売は、本号を最後とし(在庫は 2025 年度も継続販売)、今後は、イベント等新しい形で園情報を保護者に発信することを模索検討中。

- ・「ENDOCOフェスタ」

これまで同様トレッサで年 2 回 6 月と 9 月に実施、地域の保育園や幼稚園にとっては恒例のイベントとして園児獲得の機会としてとらえられるようになってきた。

- ・「ココマップ」「トレッサブログ」

当事者人材を運営側に巻き込む形で継続実施中

- ・「園活セミナー」

産前産後のおうちとのコラボ開催。10 月は保育所等利用申請書の書き方講座、2 月は復職前講座を開催。両日 10 組満員となり、セミナーをきっかけに産前産後のおうちの初利用もあり相乗効果があった。

2) 制作・請負業務

野菜レストランさいとうのショップカード、BeACTO の利用冊子、はじめの 100 か月の育ちビジョンの動画作成など企業からの依頼や、法人内部からの依頼が増える中、外部のプロボノを活用した作品もいくつか制作された。

3) 事務局受託業務

例年通り、各団体の受託業務については、活動支援・事務支援を中心に事業が行われた。

(一社)全国子育てタクシー協会事務局の事業については、職員の退職に伴い、法人としての事務局長を担う理事の変更などが行われた。国交省の補助金を利用した養成講座受講者増など全体的に動きが活発。また 2025 年度からは、子どもの移動・送迎支援にかかる取り組みとして、子育てタクシー普及促進事業に関して、横浜市・神奈川県タクシー協会横浜支部・全国子育てタクシー協会と 3 者協定を 3 月末締結した。国際校庭園庭連合日本支部では全国都市緑化かわさきフェア秋日程・春日程ともに箱庭ワークショップを出展し、多くの来場者でにぎわった。

4) 新規事業開発など自主財源獲得のための活動

・区内における2つのエリマネ活動

ア)BeACTO 日吉の事務局業務請負については、6 月より前団体より業務の引継ぎが開始された。受付業務以外に、エリマネ会員増大に向けたイベント実施、コーヒーミーティングの再始動など、箕輪・日吉の地域をエリアマネジメントとして活性化していく活動への参画を開始した。

イ)レ・ジェイド新横浜における地域開放集会室の運営は、カフェを中心として地域に開いていく方針が決まった。名称は法人内の投票で「cafe えんと」に決定、2025 年度のオープンに向け準備中。

・新規助成金「はじめの 100 か月の育ちビジョン※」

地域コーディネーターを育成し、地域に子どもの育ち 100 か月にかかわる内容を普及啓発していく事業。アクションポート横浜と協働で、4つの活動(産前産後のおうち、ふれあい体験、よるによる会、横浜子育て家庭応援事業ハマハグや子育て応援隊への参画)を中心に法人が任命した地域コーディネーター9人が、様々な事業へ参加し、そこでかかわる人々へ 100 か月の育ちの大切さを普及啓発した(活動期間:7 月~3 月)。

※正式名称:(こども家庭庁:「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン」策定後の具体的な取組推進(地域等の特色を活かし具体的活動を推進する人材養成に係る先進事例の創出)に係る委託事業)

・団体・企業連携

(株)ベルタ、東京工業大学、スマイルコンサートなど

・継続事業

横浜子育て家庭応援事業ハマハグ・かながわコミュニティカレッジを前年度より継続実施。

取材見学は取材予約サイト「Shisaly」を導入し、一部の見学者には有効にサイトを活用できた。

PTA と直接やりとりが可能なサイト「PTA'S」からはいくつか引き合いがあるが、事業の受託には至っていない

・外部講演会講師・外部委員会・審議会出席

外部委員会・審議会への参加や外部講演会講師を行い、子育て家庭の状況を発信した。

5. 上記の事業を行うために必要な一切の活動

(1) 基本データ

① 実施場所	横浜市港北区大倉山2-7-47 シャトレ大倉山103 横浜市港北区大倉山2-7-48 シャトレ大倉山西館201
② 業務時間	月曜～金曜 9:00～17:30
③ 従業員数	7名
④ 事業概要	・法人全体の財務、総務管理、労務管理 ・法人運営に関する一切の会議の準備と運営、会議後の業務管理 ・各事業の助成金・補助金申請サポートや新規事業サポート ・学生インターンの活動を支援するメンターへの後方支援 ・法人研修の計画と実施 ・会員管理 ・寄付獲得のための活動

(2) 報告

1) 法人全体の財務、総務管理、労務管理

事業が複雑化・多様化する中で、前年度に引き続き、円滑に業務を次世代に引き継ぐため、法人全体の事務局業務を洗い出し、担当を明確にし効率化を行なった。

2) 法人運営に関する会議の準備と運営、会議後の業務管理

理事会の運営については、議案に集中し短時間で終わるような工夫をし、議事録に文字起こしソフトを導入し、業務の効率化を図った。

事業代表者会議については、議事録の輪番制を取り入れたが、事業によって課題感に差があり、議事進行については課題が残った。2025年度からは、事業代表者会議を分野別に行なう事を予定している。

3) 各事業の助成金・補助金申請サポートや新規事業サポート

新規助成金については申請のための資料準備や予算作成などを行なった。また報告においては、助成金担当者と一緒に会計報告等を作成し、滞りなく期日までに提出できるサポートを行なった。保険の手続きなど、普段は現場では気づかない部分などについても支援した。

4) 学生インターンの活動を支援するメンターへの後方支援

インターン謝金を活動年数によりアップし、継続した活動を行なえる環境を作った。年度途中で活動をやめる者もあり、インターンに伴走する現場のメンターへの支援でも課題が残った。

5) 法人研修の計画と実施

例年通り新任者研修を行う以外に、55歳以上の職員に向け、セカンドキャリア研修を実施した。このメンバーでの集まりは、「over55」として法人の運営を前向きに考える集まりとして、年度末まで継続した。ここから法人内派遣事業「CUROTO(クロート)」も誕生した。

またパワハラ・メンタルヘルスの研修を、ちいさなたね保育園の新任者と事業代表者に対して実施した。次年度は対象を広げ、全職員が受けられる環境を検討している。

6) 会員管理、寄付獲得のための活動

外部に対して年明けから、シンカブルを活用し会員継続及び寄付についての案内を早めに実施することができた。

7) 25周年事業

2025年6月の25周年事業を、各事業から選出された職員で進めることが決定した。このメンバーは「25ans(ヴァンサンカン)」という名称で、月1回の定例の集まりなどを実施し、事業計画をすすめている。

8) 中期計画

令和4年に掲げた「2歩先へ!」～安定とさらなる挑戦!～の中期計画の最終年度。「福祉×教育の連携」「産前産後支援×サポートの連携」「とも育て×地域からの応援体制」を3本柱に掲げ、理事会の度、活動の総括を行った。

9) 新規事業

新規事業として法人の今後を見据え、事業の垣根を超えたメンバーで、ファンドレイジングや新規事業などを検討する「未来会議」を行った。専門のコンサルタントとも契約し、法人の未来像を模索している。

6. 中期計画報告

(1) 報告

2020年～2022年に策定した「中期計画『2歩先へ!』」の最終年度となり、2019年度から関わる職員および役員全体で討議してきた結果の3本の柱それぞれに対する3年間の推進結果を下記に報告。

柱1:福祉×教育との連携 具体的推進:「ふれあい体験活動の推進」

実践については3年目で小中高生1,180人に対し乳幼児家庭178組との出会いを創出。小中高校の実施希望も年々増え、乳幼児を連れて学生と触れ合うことの意義や意味を感じてくれる家庭からの希望も多くなってきた。また地域からの支援者、応援者を多数得ながらどの回も開催することができ気運としての高まりを実感できた3年間であった。拡がりを感じる一方でまだ学校長の判断にゆだねられることも多く、また学校としても学年単位でなくクラス単位での実施校も見受けられることからさらなる推進が必要と感じた。

柱2:産前産後支援ケア×産後サポートの連携 具体的推進:「産前産後のおうち」

法人内地域子育て支援拠点事業(どろっぷ・どろっぷサテライト・菊名ひろば・COCOひよし)を中心として実施してきている妊娠期からの支援としての「両親教室」をはじめ産前産後期の家族を支えるプログラムの充実とともに、区内2ヶ所にて進めてきた「産前産後のおうち」事業は2024年度実績でのべ216組の家庭を受け入れてきた。3年間の助成事業の2年目までのタスクを展開しながら本事業への他区、他自治体からの関心も高まり、視察見学対応なども行ってきた。利用家庭当事者のおうち活動の意義の浸透からもケアの要素だけでなく地域人材が関わる実家的機能を有するコミュニティのあり方、価値も見出された。

柱3:とも育て支援 地域からの応援体制

具体的推進:「常設型5拠点連携でのサードプレイスの実現」

当初スタートした時はひとり親家庭支援として主に配食支援が主だった活動からコロナ禍を経て従来の食を共にする場づくりに注力した3年間だった。「よるによる会」として法人内常設型5拠点においてそれぞれ独自のやり方でカレーを主とした大家族のように過ごせる時間を創出。多世代にわたって交流することができた。この活動においても食の運搬、作る側、子どもとじっくり遊べる学生の存在など多くのボランティアが関わってくれる活動になった。最終年度においてはフードドライブも行い日常的に食品の寄付が地域から集まるようにも発展。さらにはこうしたボランティアに対し、専用の感謝のツール、キーホルダーも地元の事業者の善意で量産するなど、多様な支援のあり方を実現することにつながった。

さらに持続可能な活動としてのマネジメント分野においては、「勤怠システムの導入」「就業規則改訂」それに伴う「退職者を中心とした法人内派遣事業『CROUTO』の誕生」、「研修基盤の構築」「緊急マニュアルの整備」「事務局チーム体制の構築」などを行った。

最後に上記柱1～3においてはこども家庭庁の「はじめての100 か月育ちビジョン」の普及啓発事業「地域コーディネーター養成事業」の受託によってより活性化された取組みとなった。